

地域を支える柱をたてる

長野県の諏訪神社の御柱祭は全国的に知られているが、越河地区でも住民の安全とあわせを願って6年に一度行われている。越河地区で、約140年の歴史を持つ御柱祭。地域みんなで力を合わせた2日間は、とても暑く、そして熱かった！



1



2



3



4

▶写真1_祭りのクライマックスである約100mの坂登り
▶写真2_切り出されたご神木
▶写真3_祭り初日に行われた山出祭。力を合わせてご神木を里まで下ろす皆さん
▶写真4_祭りの2日目の里曳祭。子どもも大人も大きな掛け声で、地区内を練り歩いた

越河の諏訪神社

白石市南端の地区「越河」。かつては越河、五賀、平の3つの村があった。現在の「白石市越河字」の地域170世帯、約560人の集落に、地域防火の守り神である「諏訪神社」がある。この神社は、天正17(1582)年にまつられたといわれ、御柱祭は、現在の宮司である高野幸雄さんの曾祖父が寅と申の年に行うこととして、明治5(1872)年から続けている伝統行事である。それから約140年、この御柱祭は越河地区にとってなくてはならない地域の祭典として、赤ちゃんから嫁いだ娘までが6年に一度、地域の結びつきをあらためて確かめにくるのだ。

山出祭(やまだしさい)

7月24、25日の2日間にわたって行われる祭りは、初日に、奉納する杉の大木を山から里に下ろす「山出祭」が行われた。今回のご神木は、佐藤芳郎さんが自宅の裏山で育てた、高さが7.5m、根元の太さが60cmほどもある杉の木だ。4月に切り出し乾燥させておいたこの杉の木を、約200m先の母屋まで地域の皆さんが協力して引つ張った。この日の最高気温は33.4度、山出祭に参加した皆

さんは汗びっしょりになりながら、住民同士の信頼とさずなを確かめるように、声を掛け合いながら山から里に引き出した。

里曳祭(さとびきさい)

2日目の25日は、福島県境から越河小学校付近までの旧国道4号、約3kmをご神木とともに練り歩く「里曳祭」が行われた。御柱祭が開催されない5年間、地区内の子どもたちによる「樽みこし」が練り歩き、地域全体でのさずなを深めている。この日も、立っているだけで汗が噴き出す猛暑となった。気温もぐんぐん上昇し、32.4度の最高気温を記録した。この炎天下にもかかわらず、子どもも大人も「わっしょい、わっしょい」と大きな掛け声を掛ける。

台車に乗せられた御神木は、地域の力自慢の皆さんに引かれながら練り歩いた。

午前11時ごろ、約100mの神社に向かう急な坂道を登り始めた。ここからが祭りのクライマックスである。警備担当の消防団員もご神木の「坂登り」のための綱を引く。階段あり、カーブありと、難所に次ぐ難所で引き手の皆さんも綱を持つ手を離すことができず、流れる汗をぬぐう暇もない。何度も休憩を取りながら、やっとの思いでご神木を立てる境内に到着。引き上げられたことで泥まみれになったご神木を、わき水できれいに洗い清めた後、事前に掘っておいた穴に力を合わせて差し込んだ。綱から滑り落ちないようにご神木は慎重に持ち上げられ、集

まった皆さんからは大きな拍手が沸き上がった。地域のさずなが築き上げられた瞬間である。

地域のさずなと郷土愛

この6年に一度の御柱祭は、地域のさずなと歴史的な地域文化を守るための大切な催事となっていることを感じた。地域の無火災と健康で幸せに暮らしたいという願いを込めて、地域を離れても参加する方も多い。この催事を通じた地域づくりが、人を思いやり助け合える郷土愛を持った人間を生み出すのではないだろうか。御柱祭は、まさに越河地区の幸せを支える心の「柱」であるのだ。そしてこれからも、柱を立て続けられるよう、みんなで守り引き継いでほしい。

▲坂登りを終え、事前に掘ってあった穴にご神木を立て御柱祭は終了した

Interview

家族全員で参加しました。前回の御柱祭のときは、小さな子どもがいたのでご神木を立てるところは見ることができませんでした。今回、初めて見ました。御柱祭という危険というイメージがあったのですが、無事に終わることができて良かったです。



越河諏訪神社
宮司 高野 幸雄さん
明治5年に始まり、高野幸雄、小三郎、正司そして4代目幸雄まで、約140年続いています。この伝統は引き継いでいかなければなりません。

今回の献木に手を挙げました。自宅の裏山で60年間手入れをしてきた大木です。地域の皆さんに引かれていくのを見ると、達成感がありとても気持ちのいいものだなと感じました。



献木者 佐藤 芳郎さん



実行委員長 樋口 祝郎さん
毎年暑い日のお祭りですが、今年は格別です。若い人たちが集まり、無事に引き上げることができました。御柱祭が今後200年、300年と地域の大切な行事として受け継がれるものと信じています。



越河小学校PTA会長 古山 智子さん